

「神田神保町アーカイブ」開発の狙い

2021年11月

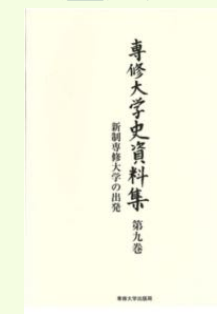
専修大学商学部教授・商学研究所所員 渡辺達朗



- 地域情報発信のプラットフォームとしての神田神保町アーカイブ
- アーカイブの基盤：専修大学**大学史資料室**



- ✓ 専修大学の歴史、および関係者の事蹟に関する資料の収集、整理、保存、公開を行うことを目的に、1973年、年史編纂室として開設
- ✓ 所蔵資料：大学史資料 約30,000点、写真 約15,000点
- ✓ これらは1880（明治13）年創立以来142年にわたる資料であり、学内史にとどまらず、明治以降の法制度・経済・社会・教育・文化、そして地域などの歴史にかかわる貴重な資料といえる
- ✓ これまで『専修大学史紀要』『専修大学史資料集』等を編集・発刊したり、学内外で展示を実施





□ デジタルアーカイブ化の目的

- ✓ 全所蔵資料をデジタルデータとしてアーカイブ化し、**検索可能**にしたら、自分が興味のあるテーマについて、どのような資料があるかを探ることが可能に
- ✓ 蓄積している資料を「共有資産」として、**オープンデータ**形式でインターネット公開すれば、多くの人アクセスでき、「知の双発」や「知識創造」が生じる可能性
- ✓ その第一歩として、専修大学が所在する**神保町を中心とする神田エリア**に注目し、資料のデジタルアーカイブ化に着手
- ✓ とりあえずデータとして**123件分**（絵葉書、地図等、戦後数年間の「専修大学新聞」掲載の地元企業等の広告など）について、「資料番号」「ウェブ用タイトル」「資料の説明」「カテゴリー」「媒体」「住所」「対象年月日」「発行所」「サイズ」等を入力

□ デジタルマップとの連動

- ✓ 地域を切り口とした資料なので、**Google Map上**に落とし込むことができ、そのさまざまな機能が利用可能
- ✓ **どこに何があるのか？**という情報だけでなく、**いつ、どこでどのようなことがあったのか？**という複層的な情報を取得・発信できる
- ✓ これにより**地域研究**や**地域マーケティング**への活用可能性が広がる

■ 神田神保町アーカイブの特徴をどこに求めるか

□ 展開方向

- ✓ タテ展開：登録データを増やす→予想以上にたいへんで、片手間にできる仕事ではない
- ✓ ヨコ展開：オープンデータ設計を活かして神田5大学資料室との連携→中期的な課題
- ✓ 資料と地図情報を対応させたデジタルアーカイブは他にも存在 →**新規軸**をめざす

□ 神田エリアの「人物」のオーラルヒストリーのアーカイブ化

- ✓ **東京神田神保町映画祭**との連携
- ✓ 写真や思い出の品などをフックにして、神田のまちの変遷について語っていただくインタビュー動画の蓄積



■ 動画の仮テーマ

「神田の過去・現在・未来を語るー2つの東京五輪（オリンピック）を超えてー」

■ インタビューの対象

- 1960年前後（昭和30年代）に神田エリアで幼少期から青春期を過ごし、1964年と2021年の2回の東京オリンピックを経験しながら、地域で活躍してきた現在およそ70歳以上の地元の先輩たち
- 過去・現在・未来について「生きた言葉」で語ってもらう
- 1本当たりの時間（尺）は要検討、年度内に5～6本制作をめざす

■ 背景

- 神田のまちは1964年の東京オリンピック前後に大きく変貌した
- 参考：日本映画史からみた1960年前後（昭和30年代）とは
 - ✓ 1956年「太陽の季節」など日活アクション映画が一世を風靡
 - ✓ 1960年頃から松竹ニューベルバーグ、大島渚、篠田正治、吉田喜重ら
 - ✓ 1965年 市川崑「東京オリンピック」
- 1990年代前半のバブル崩壊期にも街並みの変化はあったが、古書店街は大きな傷を負わずにもちこたえた
- インバウンドの盛り上がりによる来街者の変化、コロナ禍、2度目の東京オリンピック、老朽化したビルの再開発など大きな変化の予感が…

